

友達がいないと人生はつまらない。私はその考えはどうかと思う。確かに友達がいれば楽しいし、明るくなれるのかも知れない。でも、誰もがそう思っているのだろうか。よく、一人でいる人のことを「ぼっち」だとからかう人がいる。それを恐れて、あまり好きではない友達と無理して一緒にいる人や、自分が「ぼっち」だと周りに思われたくないがために無理して友達にテンションを合わせている人もいるのではないだろうか。

私も小学生のとき、周りにぼっちだと思われたくないがために無理して友達にテンションを合わせている時があった。その頃の私は、友達にどんな事をされても、どんな言葉を言われても笑ってごまかす毎日を送っていた。しかし、友達の前で笑っていたとしても心は深く傷付いていた。なぜそんな風になってまでその子と友達でいたかったのかというと、その頃の私は友達がいないと人生はつまらないと思いきんでいたからだ。だから、その子にどんなことをされても笑っていたし、ずっと一緒にいたのだ。

ある日、私は、母に悩みを打ちあげた。すると、
「その子とそんな思いをしてまで一緒にいる必要ある？」
と言われた。でも、その頃の私にはその子以外に仲の良い友達はいなかった。そこで私は「うん。」と答えた。すると母は、
「じゃあ、一回、おかしくなってみなさい。」と言った。私はその言葉を聞いて、あっけにとられた。「おかしくなる」とはどんなことだろうとしばらく考えた。すると、それは相手に気を遣いすぎないで、自分の言いたいことを言うこと——つまり、本心を出してしまうことなのだと考えついた。でも、本心を出すと、友達がいなくなるのではないかという不安は大きかった。戸惑っている私に母は、「おかしくなって、そんな夏奈とでも一緒にいてくれる人と友達になりなさい。それで、もし、『ぼっち』になったとしても、夏奈と友達になってくれる人は必ず現れるから。」と続けた。私はまだ迷っていた。その時の私にはとても考えられないことを母は自信たっぷりに言ったからだ。しかし、私は戸惑ったままだったものの、母の言葉を信じてみることにした。このままの自分だと心がもたないと感じていたからだ。それからは、例えば、友達に同調してほしいと頼まれても勇気を出して自分の意見を素直に言ったり、されていやなことははっきり言うなどしてみた。

すると、とても心が楽になった。実際、実行してみるとおかしくなった私とでも友達と一緒にいてくれ、本当に話したいことを話せるようになった。私が思っていたより、ずっと友達は私のことを理解してくれていたのかもしれない。私たちは本当の友達になった。それからは、悩むこともなくなった。そして私自身もとても自分に素直な性格になった。そのことで友達とも自然に支え合うことができるようになった。

もし、私と同じように「ぼっち」になりたくないがために苦しい思いや、つらい思いをし

ている人がいるのであれば、自分の本心をさらけ出して、一度おかしな自分になってみたらいいと思う。周りのことを気にしすぎず、まずは、自分自身を認めてあげることが大切だ。そして、本当の自分と友達になってくれる人が必ず現れるのだと信じればいいと思う。

でも、一方で、きちんと考えてみると私たちに「ぼっち」になる瞬間はないのかもしれない。私も母、そして家族の存在や、学校の先生方、周りで支えてくれた人がいて、生まれてから今までずっと誰かと一緒に生きてきたのだ。だから、悩んでいた瞬間も「ぼっち」ではなかった。必ず誰かが自分のそばにいる。そうだと知っていれば「ぼっち」になることも怖くないだろう。なぜなら、「ぼっち」になることは自分がぼっちでないことを知るための「鍵」だからだ。だから、心配することはない。本当の自分を信じてみたらいいと思う。そうしないと、本当の意味で人生はつまらないものになってしまうと思う。